

鍛冶屋

鍛冶屋は、砂鉄や木炭を金属製の道具や武器に変える全国的な生産チェーンの重要な役割を担っていた。初期の独立した鍛冶屋は刀剣を専門としていたが、マッチロック式火縄銃や農具、ナイフ、ハサミなどの日用工具を専門に扱う店もあった。

高級鋼の生産量には限りがあり、価格も高かったため、鍛冶屋は希少な材料を効率的に使う方法を開発した。そのひとつが、鋼鉄の薄片を鉄の工具の先端に接合する方法だった。一度仕上げて研げば、工具の刃先は鋼の切れ味と耐久性を持ち、完全な鋼鉄製に比べればほんのわずかなコストで済んだ。この技法は、鍬や鎌の刃(下のケース)のような農具を作るのに頻繁に使われていた。